

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

がん患者の家族・遺族への地域サポート・連携体制の確立に関する専門家パネルによる検討

研究分担者

慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室/一般社団法人コミュニティヘルス研究機構機構
山岸暁美

研究要旨

2019年度のインタビュー調査により、遺族ケア・グリーフケア提供に関する今後の課題および、地域包括ケア・地域共生社会構築の文脈の中での遺族ケア・グリーフケア提供の意義・可能性が示唆された。今年度は、上記知見および文献レビューの結果をもとに、専門家パネルを開催し、具体的な実装・介入モデルを考案した。

A. 研究目的

2019年度のインタビュー調査により、遺族ケア・グリーフケア提供に関する今後の課題および、地域包括ケア・地域共生社会構築の文脈の中での遺族ケア・グリーフケア提供の意義・可能性が示唆された。

最終年度は、上記の知見および文献レビューの結果をもとに、専門家パネルを開催し、具体的な実装・介入モデルを検討し、次期がん対策推進基本計画策定の際の基礎資料を作成することを目的とする。

B. 研究方法

1) 実践家によるグループディスカッション

以下の実践家に参画いただき、2回のグループディスカッションの場を設定した。2019年度のインタビューで明確になった「遺族ケア・グリーフケアのコミュニティベースでの展開の意義」、「今後の課題」の項目を参加者に提示し、実装可能性を検討、具体策やその手法についてディスカッションした。発言内容は録音し、文字起こしを行った。

(1) 2022年2月6日(日)

A 県内のがん看護 CNS および関連領域の CN および A 県庁内看護職 70 名

(2) 2022年3月12日(土)

B 県 C 市 D 区の医療介護専門職(医師会等職能団体含む)及び行政職員 80 名

2) 専門家パネルによる実装・介入モデルの検討

上記グループディスカッションおよび文献レビュー等の結果をもとに専門家パネルで実装・介入モデルの検討を行った。

C. 研究結果

コミュニティベースの遺族ケア・グリーフケア具体的な実装・介入モデルを考案した(図1)。

D. 考察

多死社会がしばらく続く我が国において、遺族ケア・グリーフケアの提供体制構築・質の担保は喫緊の課題である。介入モデルに示した通り、「個別支援」「地域・団体・機関へのアプローチ」「施策、政策、社会への反映」の一貫した仕組みづくりが求められる。

E. 結論

介入モデルを元に、遺族ケア・グリーフケアの実装に取り組んでいく。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

日本在宅医療連合学会学術誌に投稿予定

2. 学会発表

山岸暁美, 明智龍男. コミュニティベースの遺族ケア・グリーフケア提供の実態・課題・展望に関するインタビュー調査. 第26回日本緩和医療学会シンポジウム13 遺族ケアと、遺族になった後の悲嘆を軽減するための家族ケア. 2021.6. 東京.

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得 なし 2. 実用新案登録 なし

